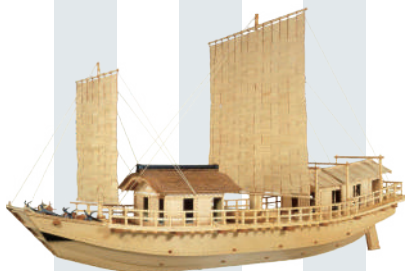


この本であつかう できごと年表

[illegible]むろまち
室町

あづちももやま
安土桃山

むろまち 室町										あづちもやま 安土桃山													
1368年	1392年	1404年	1467年	1477年	1485年	1488年	1543年	1549年	1560年	1568年	1573年	1575年	1577年	1582年	1583年	1584年	1588年	1590年	1592年	1597年			
足利義満が3代将軍になる	南朝・北朝が統一される	日明貿易(勘合貿易)が始まる	応仁の乱が始まる	応仁の乱がしずまる	山城の国一揆が起こる	加賀の一向一揆が起こる	鉄砲が伝わる	キリスト教が伝わる	桶狭間の戦い	足利義昭が15代将軍となる	室町幕府がほろびる	長篠の戦い	織田信長が安土城下で楽市・楽座をおこなう	本能寺の変で織田信長が亡くなる／太閤検地が始まる	賤ヶ岳の戦い	小牧・長久手の戦い	刀狩令が出される	豊臣秀吉が天下を統一する	朝鮮出兵(文禄の役)	朝鮮出兵(慶長の役)			
																							
明が成立する(1368年)	北山文化	倭寇	東山文化				フランシスコザビエル	織田信長／今川義元				織田信長／武田勝頼	明智光秀	豊臣秀吉／徳川家康	豊臣秀吉／柴田勝家					桃山文化			
																							

第1章 武士の時代のはじまり

平氏の政治と源平の争い

ここが知りたい!

1167年

平清盛が太政大臣になる

1180年

平氏をたおすために
源頼朝が兵を挙げる

1183年

倶利伽羅峠の戦い

1184年

一ノ谷の戦い

1185年

屋島の戦い

壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる

源頼朝が全国に
守護・地頭を配置する

1189年

源義経が自害する

奥州藤原氏がほろびる

1192年

源頼朝が征夷大將軍になる

1 平氏の繁栄の背景 → p.7

2 源平の争い (治承・寿永の乱) → p.8

3 奥州藤原氏の滅亡 → p.8

4 鎌倉に幕府を開く → p.9

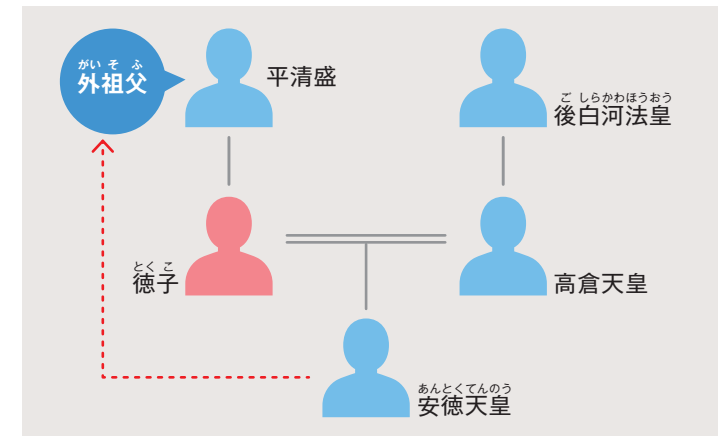
実 質的に権力をにぎった平清盛は、貴族の最高位である太政大臣の地位に武士としてはじめてのぼりつめます。さらには娘を高倉天皇の后(中宮)にし、生まれた子を天皇にすることで外祖父として事実上の最高権力者になりました。

しかし、多くの荘園をもち、一族で高位・高官を独占したことなどから貴族や武士たちの不満が高まり、平氏は源氏によってほろぼされます。源頼朝は武士の最高位である征夷大將軍となり、鎌倉で本格的な武家政権がはじまります。

源氏と平氏の戦いをえがいた『平家物語』のなかに出てくる「平氏でなければ人ではない」というセリフは、おごり高ぶった平氏を象徴するセリフとして有名だよ

1 平氏の繁栄の背景

平氏は武力だけで権力をにぎったわけではありません。貴族社会のさまざまな役職を一族で独占したうえに、平清盛は天皇の外祖父となり、政治的な地位をたしかなものにしました。また、全国の約半分の荘園を所有して、そこから収入を得て経済的基盤も固めました。



ここも
ふかぼり!

日宋貿易がもたらしたもの



大輪田の泊での日宋貿易のようす

清盛は大輪田の泊(現在の神戸港/兵庫県)を修復して瀬戸内海の航路を整備し、中国(宋)とさかんに貿易をおこない富をたくわえました。日本からは金、硫黄、刀などを輸出し、宋からは銅銭(宋銭)、陶磁器、香料、本などを輸入しました。とくに宋銭を大量に輸入して国内で流通させたことで、貨幣経済が広がりました。



輸出品となった日本刀(復元模型) 宋銭 写真:兵庫県立考古博物館(3点とも)

世界遺産になった平氏の守り神

広島県廿日市市にある厳島神社は、平清盛が一族の守り神としてあつく信仰し、海上交通の安全を祈った神社です。1168年、清盛によって寝殿造の様式を取り入れた社殿が造営され、その姿が今に伝わっています。その歴史的・文化的価値が認められ、1996年、ユネスコ世界文化遺産に登録されました。

写真: Adobe Stock



2 源平の争い(治承・寿永の乱)

富も権力もひとりじめする平氏に対して、貴族だけでなく、武士のあいだでも不満が高まっています。

そこで、平氏をたおすように命じた以仁王の令旨を受け、源頼朝は東国の武士を集めて伊豆(静岡県)で挙兵。頼朝の弟の源義経や木曾義仲なども加わって、源氏の軍勢は平氏を西へと追いつめ、ついに壇ノ浦(山口県)で平氏をほろぼしました。



源平合戦のおもな戦場

ここもふかぼり! 義経と頼朝の対立

平氏との戦いで活躍した義経でしたが、戦場で勝手な行動をとったことや、頼朝の許可なく朝廷から位をもらったことで頼朝の怒りを買います。鎌倉に入ることのゆるされないばかりか、義経討伐の命令が出されます。

さらに頼朝は、義経を探し出すという名目で、自分に従う武士(御家人)を守護や地頭

として全国に配置する許可を朝廷から受け取ります。これによって、頼朝は実質的に全国を支配することになったのです。



源義経像(室町時代から江戸時代の作/部分)
写真:中尊寺

3 奥州藤原氏の滅亡

頼朝に迫られた義経は、平泉(岩手県)を中心に東北地方をおさめる奥州藤原氏のもとへ逃げこみます。しかし頼朝は追手をゆるめず、義経を自害に追いこんだだけでなく、彼をかくまったことを理由に藤原氏もほろぼし、東北へ支配を広げました。

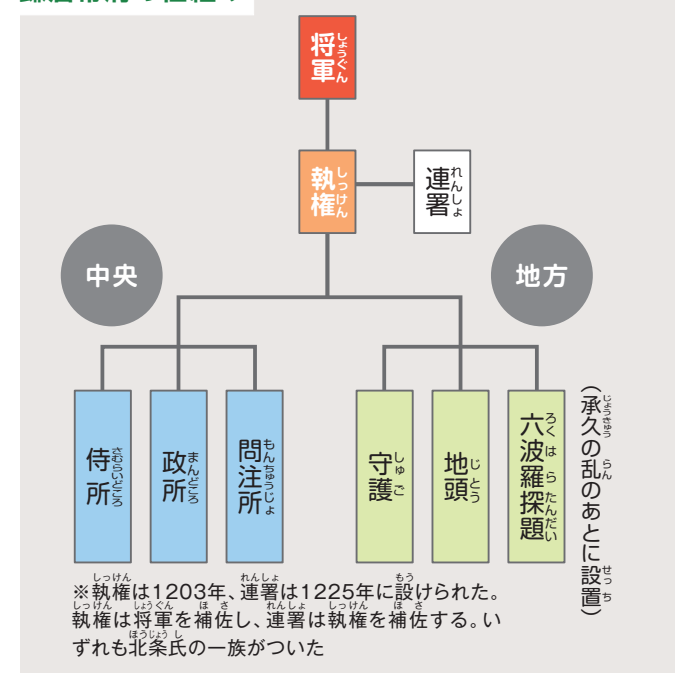


奥州藤原氏が築いた中尊寺金色堂は奥州特産の金でいろどられる。2011年には中尊寺をふくむ平泉が世界文化遺産に登録された
写真:中尊寺

4 鎌倉に幕府を開く

1192年、源頼朝は朝廷から征夷大將軍に任命されます。頼朝は、朝廷や寺社の権力が強い京都や奈良からはなれ、自分の支持者が多い鎌倉(神奈川県)で政治をおこなうことにしました。三方を山に囲まれ、一方は海に開けていて、攻められにくい土地であることも、鎌倉が選ばれた理由の一つです。

鎌倉幕府の仕組み



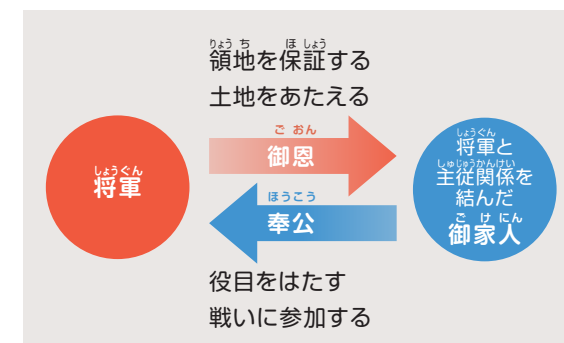
守りやすく、攻めるのはむずかしいとされた鎌倉の町の復元模型
写真:国立歴史民俗博物館

ここもふかぼり! 封建制度とは

頼朝(将軍)が御家人に対して先祖伝来の土地を支配することを保証したり、功績に応じて新しい土地をあたえたりする(御恩)のに対し、御家人はあたえられた職務をはたし、戦いが起きたときには将軍のために戦うことを約束します(奉公)。

土地を介して御恩と奉公で結ばれた関係を封建制度といい、鎌倉時代以後、明治政府が成立するまで続いた制度です。

御恩と奉公



キーワード 征夷大將軍

朝廷に従わない「蝦夷」を征伐する司令官にあたえられた役職だが、源頼朝以後、武家政権のトップを意味することになる。

「守護」と「地頭」はどうちがう?

守護は、武蔵国、相模国など、各国に1人ずつ置かれ、御家人とよばれる武士たちを統率して治安の維持をはかります。現代の警察と軍隊のような役目をはたしました。地頭は荘園や公領※ごとに配置され、その土地を管理したり、年貢を集めたりしました。

※公領: 朝廷や幕府が直接支配する土地